

常任委員会視察ルポ

総務委員会視察ルポ

総務委員会は、宮城県仙台市、東京都多摩市、国立市の三市について五月十日から三日間で行った視察を行った。

まず、政令都市である仙台市では「新たな財源の確保」と「情報セキュリティポリシー」についての二項目を調査した。新たな財源については、仙台スタジアムのネーミングライツや市政だより・こみ袋・封筒などの市有財産を広告媒体として活用し始めた動機や背景、応募状況や広告収入、市民の反応等を調査した。また、電子化による情報保護については、「情報システムセンター」の概要やシステム体制、運用上の問題点等を調査した。

東京の住宅都市である多摩市では、市民が主体的にまちづくりに関わるための「自治基本条例」の制定の背景や経緯、制定

後の市民、行政、議会の変化などを調査した。

同じく国立市は、「補助金制度改革」についての庁内での議論及び交付制度改革の経緯、既得権者の反発、第三者による評価委員会設置の背景と動機等を調査した。

各自自治体ともに担当者の説明から、各事業に対する自信や誇りとまちへの愛着に感銘した。今回の視察では、当春日市でも早期に実現すべき先進事例がたくさんあったので、研修の成果を生かすべく委員会で議論を重ねていきたい。



国立市で「補助金制度改革」を視察

建設委員会視察ルポ

五月十五日より三日間の日程で宮城県石巻市、岩手県盛岡市、青森県青森市を視察した。

「石巻市／防災計画について」

耐震診断、耐震改修の助成事業を行っており、木造住宅について市民に対し、耐震士を派遣し、支援するもので昨年度で十三万六千円を市が助成。また耐震改修工事を希望する市民に対しては、四十万円を限度に補助を行っている。さらに災害時における応援協定を行政関係、民間企業と結ぶなど危機管理の体制が整っていた。

「盛岡市／駅前開発事業について」城下町のなごりのある地域と新市街地地域の都心の真ん中にこの盛岡駅西口地区があることから、出会いふれあい等をコンセプトに掲げている複合施設が中心にある。施行面積三十五・六ヘクタール、総事業費が



石巻市で防災計画について視察

四百億円を超えることから、財源確保のため、残地・保留地を販売していかないと事業が進まないと言う課題も抱えていた。

「青森市／都市計画マスタープランについて」

特長ある取り組みとしては、コンパクトシティ形成を目指しているところである。再開発事業として、レストラン・専門店・公共施設を一体化させたビルや高齢者向けのマンションに医療機関・ケアハウスを統合させたビルなどがあり、高齢化社会としての利点もあるが、個人の資産としての土地執着等それなりの課題も含んでいると考えられる。

編集後記

残暑厳しい日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。家の近くの白水小学校も開校以来、半年が経ち、児童の元気な姿が朝夕に見られます。白水小学校は二学期制を導入しており、九月前から登校する光景に、近隣の方も、ふと戸惑われたのではないのでしょうか。

元々、学校用地は池で、私達の幼い頃の夏にはプール代わり毎日のように泳いでいたのが懐かしく思い出されます。

子供達が自然に親しむ機会が減ったと聞きますが、日に焼けた顔には楽しかった夏の思い出が残されているようです。(成之)

議会報編集特別委員会

委員長 長能 文代
副委員長 谷 成之
委員 松尾 浩孝
委員 柴田 英明

